2025.5.1現在

学校情報

①学校の概要、目標及び計画

学校名	設置年月日	校長名	所在地・連絡先
横浜医療秘書専門学校	平成2年3月16日	大石　進	〒231-0033 神奈川県横浜市中区長者町4-9-10 （電話）045-402-9878
設置者名	設置年月日	代表者名	所在地・連絡先
学校法人　三幸学園	昭和60年3月8日	鳥居　敏	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 （電話）03-3814-6151
学校の教育・人材養成の目的			
本校は、学校教育法及び私立学校法の規定に基づき医療秘書に関する専門知識及び技術を習得させ、職業若しくは実際生活に必要な能力の育成と教養の向上を図ることを目的とする。			
沿革	http://www.sanko.ac.jp/about/history/		

②各学科等の教育

学科	修業年限	入学定員	収容定員
医療秘書科	2年	80人	160人
医療事務科	1年	30人	30人
診療情報管理士科	3年	40人	120人
くすりアドバイザー科	2年	35人	70人

＜客観的な指標の算出方法＞

客観的な指標の算出方法
全履修科目の評定（5点法で示されたもの）の和を科目数で除したものを「評定平均」とし、年に2回（期末ごとに）一覧管理を行うことで、成績の分布状況を把握する。

＜卒業要件について＞

卒業要件	
全履修科目の評定（5点法で示されたもの）の和を科目数で除したものを「評定平均」とし、年に2回（期末ごとに）一覧管理を行うことで、成績の分布状況を把握する。	
医療秘書科	医療事務員として、受付対応、レセプト業務、看護補助、医師事務作業補助者等ができる知識を有する。
医療事務科	医療事務員として、受付対応、レセプト業務、看護補助、医師事務作業補助者等ができる知識を有する。
診療情報管理士科	・診療情報管理士認定資格を保持し、診療情報管理士としての基本的な知識と、情報活用に必要な高度なパソコンスキルを有する。 ・高いホスピタリティ・コミュニケーション力を有する。 ・チーム医療の中心的役割、及び、病院経営に貢献できる経営に関する知識を有する。
くすりアドバイザー科	登録販売者資格を取得し、ドラッグストア・薬局・薬店等、薬業界において、即戦力としてお客様・患者様対応が出来る知識・技術を有する

＜取得可能な資格について＞

取得可能な資格	https://www.sanko.ac.jp/yokohama-med/jobdata/skill_introduction.shtml

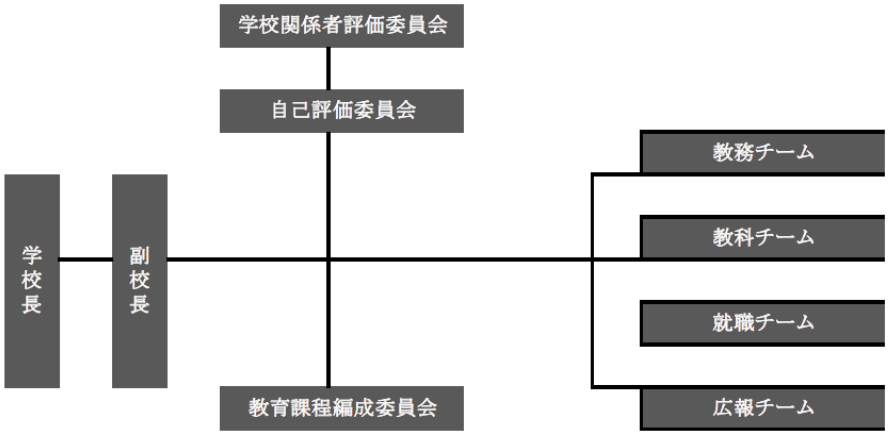
＜卒業後の主な進路について＞

就職実績	https://www.sanko.ac.jp/yokohama-med/jobdata/jobdata.shtml

③教職員

専任教員	11
兼任教員	34
事務職員	2

教職員の組織



＜教職員の専門性について＞

名前	専門分野	資格・職歴等
本間　篤	基礎医薬品 資格試験対策（登録販売者）	薬剤師国家試験 薬局にて薬剤師として活躍
北川　久子	医科医療事務 医療事務医事CP	診療報酬請求事務能力認定試験・医療事務1級 病院勤務にて病棟クラーク・小児クラーク・医療事務を経験
渡邊　裕子	医療事務医事CP 医科医療事務	医療事務検定1級・医事コンピュータ技能検定 病院勤務にて医事課外来・地域医療連携室等病院事務を経験
川嶋　静恵	診療情報管理 資格試験対策	診療情報管理士免許 がん研究センターにて診療情報管理士として８年間勤務

④キャリア教育・実践的職業教育

キャリア教育への取組	https://www.sanko.ac.jp/yokohama-med/jobdata/jobdata.shtml
実習実技への取組	カリキュラムに則した現場実習を行い、より実践的な教育機会としている。 ＜医療秘書科＞ 医療機関実習Ⅰ：１年次に約５日間（４０単位時間）の医療機関体験・見学実習を行う。医療事務業務の全般を理解し、実務内容を学ぶ。医療機関からの評価をもとに今後の課題を発見させ、学内での学びを深めていく。実習前に実習の目的を受け入れ機関と担当教員が行い、教育効果の高い実習が出来るように調整している。 病院実習：２年次に約３週間（１２０単位時間）の医療機関実習で行う。医療事務の業務の体験・実践を行い、今後の課題発見・就職活動・就職後につなげていく。実習前に担当教員と受入機関が打合せを実施し、実習中も巡回を行い、実習の目的を果たせるような環境設定をしている。 ＜診療情報管理士科＞ 病院実習：２年次に約３週間（１３５単位時間）の医療機関実習を行う。診療情報管理士業務を２週間以上実施し、医療機関における診療情報管理士の役割・他業種連携・業務内容について理解する。実習前に担当教員と受入機関が打合せを実施し、実習中も巡回を行い、実習の目的を果たせるような環境設定をしている。 ＜くすりアドバイザー科＞ インターンシップ実習Ⅰ：１年次年間を通じて、２２５単位時間の実施を最低ラインとし、基本は月８０時間の実習を目標にドラックストアでの実習を実施する。 インターンシップ実習Ⅱ：２年次年間を通じて、１３５単位時間の実施を最低ラインとし、基本は月８０時間の実習を目標にドラックストアでの実習を実施する。 いづれの実習も実習巡回を実施し、学校教育への理解と評価への協力等、受入機関との連携を密に実施している。

⑤様々な教育活動・教育環境

学校行事	https://www.sanko.ac.jp/yokohama-med/schoolguide/year.shtml

⑥学生の生活支援

生活上の諸問題（中途退学、心身の健康）への対応
担任制を取り、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。また出欠席の状況等について、必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、連携体制を整えている。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。

⑦学生納付金・就学支援

学生納付金	https://www.sanko.ac.jp/pdf/yokohama-med/guideline_2025/guideline_01.pdf
就学支援	https://www.sanko.ac.jp/yokohama-med/guidelines/

⑧学校の財務

事業報告書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf